

安岡 明雄

改革ネットワーク(青の会、市民の声、シリウス、大河の会、日本共産党)

全て「自分ごと」で進めるまちづくり

質 他人ごとでなく自分ごとで考え、議論しようという「自分ごと化会議」の取り組みが、全国的に広まっている。本市総合計画の幸福共創と共通する取り組みであり、実施に向け検討を進めてはどうか。

答 第2次総合計画の策定に当たり、市民がまちづくりをみずからのごとして考えられるよう、市民協働会議を設置して協議した。進行管理でも行動につながる仕組みの構築に努める。「自分ごと化会議」の取り組みは、手法の一つとして参考にしたい。市民一人一人が、自分たちができることを考え、みずから行動する姿勢は大変大事だと考える。

まちづくり推進のもっとなるICT活用

質 ICT(情報通信技術)活用で、市民と問題意識を共有し、政策の優先順位につなげ、協働のまちづくりをさらに進めることが重要だ。先進事例を参考にしたいICT活用で、人口政策等に生かしてはどうか。

答 総務省が開発しているICT地域活性化ポータルサイトでは、事例100選が紹介されており、活用分野は多岐にわたっている。先進地の事例を学び、本市においても情報共有・問題解決に有効な技術があるか、個人情報保護や情報安全対策等の情報セキュリティへの対応、費用対効果等を調査した上で、研究していきたい。

その他の質問事項

- 緩和ケアの充実をどう図るか
- 体系だったがん教育を実施すること
- 移住定住対策と能代の魅力発信を

議会運営委員会行政視察報告

常任委員会の所管事務調査

視察日 1月28日～29日
 視察市 大阪府八尾市
 視察項目

- ・ 予算決算常任委員会
- ・ 常任委員会の所管事務調査

予算決算常任委員会

八尾市の予算決算常任委員会は、平成26年12月に常任委員会として大阪府下で初めて設置。議長を除く全議員で構成し、全体会と分科会で審査を行う。委員長は副議長が、副委員長は議会運営委員長が務めている。

従来、予算審査については各所管の常任委員会に分割して付託、決算審査については限られた議員による決算審査特別委員会を設置し審査していた。

しかし特定の議員のみが決算を審査することにより専門性が発揮できないことや、決算審査の認定が12月定例会となり、審査内容を次年度予算に反映することが困難であること等が課題であった。

本委員会の設置により、決算と予算を審査する委員が同じくなり、長期的・継続的な視点での審査が可能となった。またあわせて、審査時期を9月に前倒したことにより、次年度予算に決算の意見を反映できる利点が生まれた。

市当局に対する監視機能の強化とともに、専門性を発揮した政策の提案や提言を目的とし、常任委員会の所管事務調査を開始した。各常任委員会は年度ごとに1～3項目にテーマを絞った上で調査研究を行い、年度末に委員会としての調査結果報告(提言・要望)を市当局に提出する。これを受けて、市当局は処理経過と結果の報告をしている。

調査研究に当たり、市当局から現状確認するための説明を受けることはあるが、調査自体は委員が主体的に行っている。

(安井和則)

